

# 圓覚寺 護持会会報

# 文 殊

令和4年 新春号



(裏面)



(表面)

## じょうとうのめい 上棟銘

平成20年(2008年)圓覚寺開創400年の記念事業の際に確認された。天保15年(1844年)3月11日、圓覚寺六世穆禅洞牛大和尚の代にて本堂が再建された折りに本堂屋根に掲げられた棟札。創建以来の歴史並びに総代役員、大工棟梁の名や檀信徒各家の平安を祈念する文言が書き記されています。

令和4年  
第11号

### 令和4年度の主な行持予定

- 1月 1日(出) 修証会(元朝互礼会) 10時・11時 各戸一名
- 12日(休) 大般若法要(大般若経六百卷の転読祈願法要)
- 2月 15日(火) 涅槃会(お釈迦様ご命日)
- 3月 18日 (予定) 圓覚寺彼岸会(春彼岸入り)
- 日 圓覚寺護持会決算会
- 4月 日 圓覚寺護持会予算会
- 日 西国三十三ヶ所巡拝
- 4月 29日(金) 和敬会花まつり(前田:東林寺)
- 5月 8日(日) 降誕会(お釈迦様ご誕生祭)・圓覚寺花まつり
- 5月 梅花流全国奉詠大会(中止)
- 7月 2日(出) 仏教文化大講演会(厚生会館)
- 7日(休) 中丹梅花奉詠大会(厚生会館)
- 日 子供禅の集い(大本山永平寺)
- 7月末~8月初旬 遠方棚経
- 7月 31日(日) 圓覚寺境内作務(役員・会員他)
- 8月 1日(月) 8:30 土師観音盆供養
- 18:30 夜施餓鬼(施食会速夜)
- 6日(出) 8:15 原爆追悼平和の鐘
- 7日(日) 7:30 土師墓地お墓掃除(お檀家一軒に一人)
- 8月 8日(月) 孟蘭盆大施食会(並に、初盆大施食会)
- 9日(火) 綾部(早朝)・夕陽丘・羽合・新庄・岩井・野花方面棚経
- 10日(水) 前田方面(早朝)・市内方面棚経
- 11日(木) 土師宮町区・土師新町東区棚経
- 12日(金) 土師新町南区棚経
- 13日(土) 土師町区棚経
- 14日(日) 孟蘭盆(お盆寺参り、午前中本堂開放)
- 16日(火) 丹波大文字送り火(法要:厚生会館)
- 8月 20日 (日時調整中) 地藏盆参り(遠方)
- 8月 21日 (日時調整中) 地藏盆(土師新町南、地藏堂)
- 9月 20日 (予定) 圓覚寺彼岸会
- 9月 24日 (予定) 彼岸参り(遠方)
- 10月 17日 (予定) 仏教振興会研修旅行
- 11月 日 秋の西国三十三ヶ所巡拝
- 20日 (調整中) 土師地区出身戦没者追悼慰霊祭
- 12月 8日(休) 釈尊成道会、未修年忌供養等併修
- 13日(火) 大すす払い
- 31日(出) 除夜の鐘・歳末調経
- 毎月1日午前6時半 読経会(朝のお勤め会) 1月を除く
- 毎月第1・3金曜日 梅花講詠讃歌(日時変)
- 毎月第1・3火曜日 午前十時 寿会写経会(日時変)

### 圓覚寺護持会役員紹介

任期	平成三十一年四月~ 令和四年三月まで
総代・役員(敬称略)	伊東 高志 土師町
代表・総務	伊東 高志 土師町
墓地管理	芦田 忠義 土師新町南
会 計	芦田 幸雄 土師新町南
会計監査(敬称略)	木下 知之 土師新町東
芦田 正吾 土師新町東	

運 営 委 員	第一班	第二班	第三班	第四班	第五班	第六班	第七班	第八班	第九班	第十班	第十一班	第十二班	第十三班	第十四班	第十五班	第十六班	第十七班
伊東 かね子 土師新町南	花 正明 土師新町南	芦 智子 土師新町南	佐 誠之 土師新町南	木 下 誠之 土師新町南	桐 谷 富美雄 土師新町東	泉 敏晴 土師宮町	赤 城 久美子 土師宮町	芦 田 咲哉 土師宮町	佐 藤 久敏 土師宮町	佐 藤 靖志 土師宮町	佐 藤 光夫 土師宮町	芦 田 英雄 土師宮町	芦 田 正吾 土師宮町	芦 田 正英 土師宮町	芦 田 正智 土師宮町	芦 田 正英 土師宮町	廣 村 謙二 土師宮町

### 令和4年度 年回表

一周忌	令和三年没(二〇二二年)
三回忌	令和二年没(二〇二〇年)
七回忌	平成二十八年没(二〇一六年)
十三回忌	平成二十二年没(二〇一〇年)
十七回忌	平成十八年没(二〇〇六年)
二十五回忌	平成十年没(一九九八年)
三十三回忌	平成二年没(一九九〇年)
五十回忌	昭和四十八年没(一九七三年)
百回忌	大正十二年没(一九二三年)

※年忌法要のご供養につきましては、特に春秋の土曜・日曜は法要が重なりますので、出来るだけ早めに日程等をご相談下さい。

### 【編集後記】

新年あけましておめでとうございます。令和二年、三年と二年続きで新型コロナウイルス禍にみまわれまして、世の中の空気が暗く落ち込んでしまった気がします。自然災害もありましたし、本来なら喜ばしい事で全国民から祝福されるはずの秋篠宮家眞子様のご結婚も諸般の事情で密やかなものになりましたし、十一月には住職のご母堂様が亡くなられると暗い話題が多かったように感じられるのも世相のせいとも感じられます。その中であって当山としては副住職に第三子のご長男が誕生と云う喜ばしい出来事がありました。感染拡大防止のために人の集まる行事が次々に中止になる中においても、円覚寺では少人数でも定例の行事は欠かさず行いましたが、やはり御詠歌の聴けない彼岸会等は寂しい限りでした。早くコロナが収束して皆様に気軽に土師に集まってもらえる日が戻るのを待ち望みます。それでも完全に収まるまではお互いに感染予防に気を配りましょう。

発行所  
圓覚寺護持会会報編集部  
住所/京都府福知山市土師一七七七  
電話/〇七七三(二二七) 四四四七  
会計 芦田 幸雄

# 賀 春



住職 成田大航

新年明けましておめでとうございます。年頭に当たり、本年が檀信徒の皆様にとって佳き年となりますよう、ご家族皆様お健やかでありますよう切にお祈り申し上げます。私事で恐縮ですが、昨年末に母が他界し、年賀のご挨拶を欠礼致しました。ひとさまのお葬式の導師はたくさんさせて頂いておりますが、我が母との別れは比較できない辛さであります。当たり前ですが、それぞれのお家にそれぞれの辛い別れがある事を思い知った年末でありました。

さて、日本では急速にコロナ感染者が激減し、ようやく穏やかな日常が戻りつつあるように見えます。しかしながら、海外の感染状況を見ますとまだまだ安心出来るような状況とはほど遠いといえるのではないのでしょうか。この二年間、様々な行事がごとごとく中止・延期となりました。毎年五月に行われる今年の梅花全国大会は、昨年秋季に早々と中止が決定されています。本当の意味でのコロナの終息は、もう少し時間がかかるのだと覚悟が必要なのでしょう。

本堂大屋根大改修につきましては、昨年地元のお檀家の方への説明会を三回行いま

した。今後は趣意書を送付させて頂き、班外のお檀家の方へのご説明等々、ご協力を仰ぎつつ何とか進めて頂きたく存じ上げます。また、様々なご意見を頂戴しておりますが、必要性についての疑問などのご意見を頂く事はなく、どのようにしてこの事業を成就したらよいかという建設的なご意見を多数頂戴致しました。コロナ禍での経済の停滞や資材の高騰など、あまり良いニュースがない中ではあります。次の時代へのバトンを渡す役割を荷負わされている者として、何とか次の百年の為にご理解ご協力を賜りますよう宜しくお願い致します。

愛語よく回転の力あることを学すべきなりと鎌倉時代の禅僧、道元禅師は言葉の力を力説されておられます。近年はグローバルスタンダードの名の下に、自己主張することが善とする傾向があります。長い歴史の中で自己主張を不得手としてきた日本人が、ネット社会の時代になって何でも言えば良いという錯覚に惑わされているのではないのでしょうか。また、修証義には「向かわずして愛語を聞くは、肝に銘じ魂に銘ず」とあります。人から



面と向かって優しい言葉をかけられる事は、こころ癒やされる事であるが、直接ではなく、人づてに「あなたの事を良く言っておられましたよ」と聞くことほど嬉しいことはない、肝に銘じ魂に深く刻まれるものである、と述べられています。こんな優しい言葉の使い方が出来る日本人こそグローバルスタンダード（世界標準）になって欲しいと切に思うこの頃であります。

# 謹賀新年

代表総代 伊東高志

新年明けましておめでとうございます。早いもので令和も四年目の新年を迎えることになりました。檀信徒の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、円覚寺護持会の運営には大変なご理解、ご協力、ご支援を賜っておりますことに厚く御礼申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルスのパンデミックから二年目、コロナ一色で明け暮れた年でございました。人類は有史以来様々な種類の細菌やウイルスとの闘いに幾度となく遭遇し、その都度知恵を絞りながら何とか克服してきた様であります。そんな種々な経験を蓄えて来たお陰で、今回の新型コロナウイルスに対しても化学や医学はじめあらゆる分野でその経験知識を生かし、僅か一、二年余りで、このウイルスに対してのワクチンを開発し、治療薬を作り出すという素晴らしい実績を發揮いたしました。昨年の秋口から感染拡大の方も少し落ち着きつつあるそのワクチン接種が一つの要因になっていると思われま。このウイルスの完全な終息は今後数十年、もしかすれば百年単位で残るかもしれないと言われてお

りますが、いずれは今までの様に必ずや近い将来にこのウイルスを克服する日が来るだろうと思っております。まずは収束の状態を早く作り上げることに以前より社会生活が戻ってくることを期待したいと思います。

さて、話題をかえませんが、ここ数年来、円覚寺本堂の「令和の大改修工事」についてはこの「文殊」で毎回報告させて頂いております。昨年はこの工事に関する一環として檀家様に対する説明会の開催を進めてまいりました。コロナ禍ではありましたが、第四波につづき、第五波が押し寄せる間隙を縫いながら、四月と十月には土師地区内檀家様対象で二回、そして十一月には土師地区以外の市内在住の檀家様対象として開催いたしました。予想をしていたより多くの皆様に出席して頂き貴重なご意見をお聞かせ頂いたことに感謝いたします。

ただ、市外各地におられる檀家様については、一堂に会することは出来ませんので、書類での説明をさせて頂く予定であります。この本堂改修の計画をした経緯や今後の予定、工事価格の説明等をお話させて頂いた上で、この厳しい時にあえてこの大事業を成し遂げようとしていることには、それだけの理由があることをご説明申し上げた所でありま。この事業立案は現総代が「円覚寺本堂の改修」を前提にここ数年に渡って考え、勉強をして

来た経緯を檀家の皆様へ順次お伝えし、多数の賛同を得た時点で契約する予定で進めてきたつもりであります。当然賛否両論はあつて当たり前でありますし一回の説明だけでは納得しがたいことはあつて然るべくと思ひます。又工事の完成を急ぐが如くに説明をしたことや少々誇張しようなお話した所は問題があつたようではありますが、まだ計画もまだ途中過程であり、契約をしたわけではありませ。予定もこのコロナにより少し遅れた感があり我々役員の間には檀家さん説明会の開催までの工程で終わりそうでありま。今年役員交代年でもあり四月からは新しい総代役員さんになりますが、何とかこの大事業が成就するようご協力ご支援の程宜しくお願い致します。

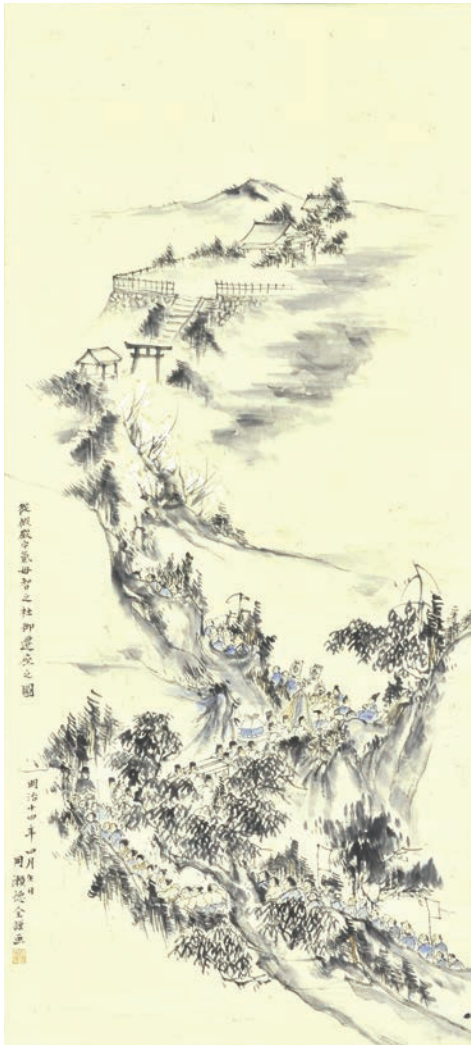
時代の流れとは言いながら、昨今仏教に限らず宗教全体に対する感心の希薄さが少しづつではありますが進んでいるようです。しかし我々の仏教界が今後も菩提寺と檀家の関係が続くかぎり、お寺の建物は檀家がしっかりと管理保存して行く義務があります。この事業も「自分の寺」「先祖の菩提所」という自覚を持ってもらうためにも、檀家全員がこの「円覚寺本堂の保存」を末永く持ち続けなくてはならないと思っております。



「資料」朝暉神社城址遷座の図

# 徙暇殿宇氣母智之社御遷座之圖

(仮殿御靈神社より福知山城址へ遷座の図) (福知山市円覚寺蔵)

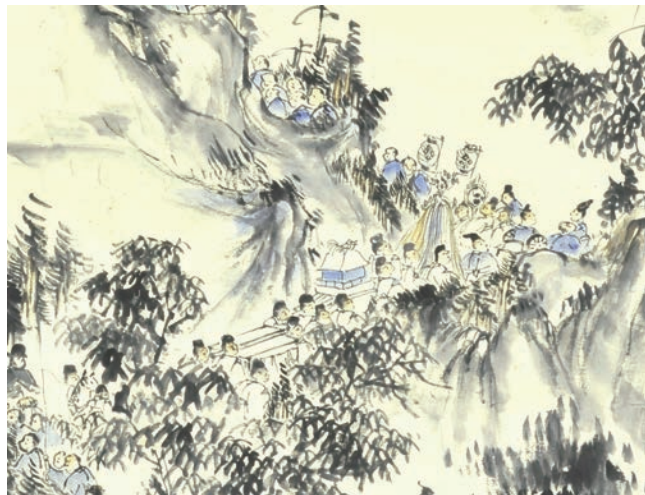


明治十四年四月生日 用瀬 (もちがせ) 徳全謹画 (徳全は旧福知山藩士、名雄蔵、号三岳)

当時御霊神社を宇氣母智 (うけもち) 神社と称していました。生 (いく) 日とは生き生きとした素晴らしい祭礼日という意味です。なお、行列は、四ツ目結紋の高張提灯に続いて、三巴紋火焰太鼓・車に乗った衣冠着装の山口齋主・五色絹を扉かせた真榊、そして植綱公御霊代の鳳輦・注連縄の辛櫃、続く洋装の白馬に跨る男性は、旧藩主代参の清水道勝大参事か。

旧藩士・一般参列者、神賑参加の力士や芸者。この図に描かれただけでも六十七名にのぼる。

明治十四年四月二十三日の朝暉神社遷座祭、その盛儀が彷彿としてよみがえる。



為 静室清賢大姉供養  
施主：久保伶仁郎様

本堂大型ファンヒーター (二台)

※太鼓台を作る職人が全国で一カ所しかなく、二年以上かかりました。



太鼓台  
為 天華院幸雲妙樹大姉供養  
施主：高橋進様

ご寄進のお礼

# 生きる極意 — 底の脱けた生活 —



## 故 板橋興宗禅師

良寛さんのように理屈のはずれた人、しかも情熱を内に秘めた人、想像しただけでも奥ゆかしく、ほのぼのとした気高さを感じる。一体どうやって、私たちはそうなれるのか。実際には、なかなかむずかしい。わが禅門では、その基本的な修行として坐禅がある。坐禅というと、足を組み、精神統一して、檜の棒でたたかれながら、大変きゅうくつな修行をするように思いがちである。まずこのような先入観を捨てるのが正しい坐禅の第一歩である。螢山禅師は、仏道の究極を「平常心これ道」と明言された。私たちの何気ない平生の一呼吸、一呼吸。耳にし、口にし、肌につれ、心に思うことがそのまま仏道の全体であるという。よそ見をしないで、ただ今の自分の「いのち」に直下に承当している。この平常心をジカにまなんであるのが坐禅である。坐禅は平常心に親しみ、平常心を養っている姿である。

無理があつてはいけない。全身心を開け放して、からだごと投げ出している姿である。心をしずめようとかが、無心になろうとかが、つまらぬ心配をしないことが大切である。これを宗門では只管打坐とも言う。

只管打坐でよいんだと、漫然と坐っていると、退屈を感じる。ウカウカの坐禅でもなく、リギン

だ坐禅でもない。実際には、なかなかきわどい。正しい師について納得のゆくまで参禅し、実究の要するところだ。頭で坐禅の意義をまとめたり、喜びを感じとったりする必要はない。からだ全体でジカに感じている。ここが大切である。その消息を道元禅師は、「坐禅は習禅にはあらず、唯だ是れ安楽の法門なり。菩提を究尽するの修証なり」と申されている。

平常心とは、坐禅はもちろん、道を歩くとき、日常生活とき、いつも身心を自由に風通しよくしていることである。要は自分から頭を使わない生活。首から下で生きている生活である。からだ全体がその場なりに、フル回転している様子である。むずかしい言葉で、「非思量」の一杯一杯の生活と言える。これを注意深く、キメこまかく油断なくやるかやらないかが、生きる極意が手に入るから入らないかの分かれ目である。

【故板橋興宗禅師「御誕生寺だより」第39号より許可転載】

元大本山總持寺貫主、曹洞宗管長、板橋興宗禅師におかれましては、令和二年七月五日(世寿九十三歳)ご遷化されました。管長職を辞された後、福井県武生市に御誕生寺を建立され、沢山のお弟子を育てられました。圓覚寺からも何度も参詣し、いつでも気さくにお話しを下さる人気の禅師様でした。禅師はネコがお好きで、猫寺として全国的にも有名になっていきます。許可を頂き、「御誕生寺だより」から転載させて頂きました。





圓覚寺 大屋根



圓覚寺 大屋根上空より西側



主師観音



主師墓地上空から福岡山市街地



地蔵堂と江戸ヶ坂



主師天満宮上空から愛宕山



昭和46年2月 区画整理前



令和3年11月 地蔵堂上空より (ドローン撮影は全て芦田彰弘氏によるもの)

# 昔と今

## 空から見た土師総区

### コロナ禍の今 思うこと

圓覚寺梅花講  
芦田 慶子

元号が平成から令和に代わり三年目、昨年から続いているコロナ感染拡大で、何度もの緊急事態宣言や厳しい行動制限での生活に疲れを感じているのは私だけでしょうか？

宣言中に東京2020オリンピックは、一年遅れで開催されましたが、その間テレビに向かって夢中で声援を送りました。無観客でも、「競技ができてうれしいし、感謝の気持ちでいっぱいです。」という選手の皆様の言葉に救われた思いでした。

今秋に入りワクチン接種が進み治療薬も出来、感染者数も減少し、ホッとしている所です。医療従事者の方々には本当に感謝しかありません。せめて私たちにできる協力、特に感染防止に気を付けていきたいと思えます。

お寺の行事もほとんど中止でしたが、宣言解除に合わせて、御詠歌の練習も始まりました。全員で十名程の講員です。講長の和尚様を先頭に、又優しく細やかなご指導をして下さる奥様、長年の精進を重ねてこられたすばらしい先輩方のお唱えを手本に練習に励んでいます。月二回の練習日には本堂で手を合わせてから、全員が気持ちを同じくして、奥様の先導が始まります。お唱えする声や鈴の音がお寺の静寂な空気の中を涼やかに鳴り響くときは心洗われる思いです。日頃の生活から離れて手を合わせる時こそありがたいと思える一瞬です。

私のお唱えは、一向に上達しませんが、練習以外の行事にも積極的に参加することで、地域や近隣の人々との繋がりが、視野も広がり楽しい日々を送らせてもらっています。

これからも周りの方のご指導を頂きながら続けていきたいと思えますのでよろしくお願ひいたします。



合掌